



外観は周辺の緑、環境との調和を重視した。



1階から3階まで、縦方向に途切れることの無い一本の柱が整然と並び建物を支える。

工事概要

発注者：京都府
 施工者：松村・中川・平和特定建設工事共同企業体
 設計・監理：株式会社久米設計
 工期：平成24年10月5日～平成26年3月28日（予定）
 構造：鉄筋コンクリート造
 規模：地上3階地下1階建て
 延床面積：9,100㎡

次代の教育拠点となる凛とした建物

教養教育共同化事業は、京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立大学の三校により、検討が重ねられてきた。異なる専門分野の学生や教職員の交流が促され、カリキュラムの選択肢も広がるものと期待を集めている。そして昨年秋、いよいよ拠点となる施設の建設が始まった。三大学が教養教育で共同利用する新校舎である。国立大学と公立大学を横断する教養教育の共同化施設としては初となる。事業が掲げる「新しい時代の要請に応じた教養教育」という

コンセプトが目に見える形で具体化しつつあると聞いて、建設が進む左京区下鴨の現場を訪ねた。

建設地は府立大学の農場跡地の西側で、地上三階地下一階、延床面積約九、一〇〇平方メートル。隣接する府立大本館との調和を重視したデザインで、講義室や実験室に加え、一般の方も利用できるレストランなどを併設する。決して壮大、華やかな建造物ではない。完成予想図を見ると、縦方向に整然と並ぶルーバー状の柱と、大きく張り出した庇が目を引く。ファサードはガラス張りとなり透明感のある凛とした印象だ。周囲

の音楽ホールや既存の大学施設、それらを取り囲む住宅街といった閑静な立地にごく自然に融合する外観である。京都府は、文化・学術施設が集積する北山界隈を「北山文化環境ゾーン」と位置づけ、京都が有する文化や学術・環境の発信・交流拠点として再整備する計画だ。この共同化施設は、その計画を具現化するランドマークとなることだろう。

現場では南側から施工が始められ、取材時（九月上旬）には建物の全体像が把握できずに進捗していた。建設は松村組・中川工務店・平和建設の共同企業体が施工している。タ



教養教育共同化施設はPCaPC構造とRCのハイブリッド仕様。横に広い正面部分は全体が工場制作されたPCaPC部材による構造だ。ルーバー兼用の細柱と床版の施工が着々と進行中だ。



意匠を活かす 施工技術と チームワーク

教養教育共同化施設(仮称)新築工事

京都府で「教養教育共同化事業」の検討が始められたのは一〇年余り前のことだ。複数の大学間の垣根を取り払い、共通の場所、時間帯で教養教育の実践を目指すとする計画である。その拠点となる新たな学び舎の建設がいよいよ始まった。若者たちの夢が集う建物の建設現場を訪ねた。



クトを振る戎野栄造所長に話を聞いた。「この建物の特徴はユニークな外観もさることながら、その構造がPCaPC（プレキャストプレストレストコンクリート）造と在来型のRC（鉄筋コンクリート）造の複合体となっている点です。これほど大規模な複合構造の施工は珍しいですよ」。

施設は廊下を挟んでその両サイドに教室や研究室などが対面するかたちになる。メインとなる中央の廊下部分はRC造、教室部分には工場製作した部材を現場で組み上げるPCaPC造



ルーバー兼用の柱と床版の接合部は、精度を保つため最も苦心した施工箇所だ。

が採用された。一・八ピッチで並ぶルーバー兼用の細柱と合成床版がPCとなる。強度を維持しつつ繊細な外観をカタチにするため、現場にはかつてないほどの高い施工精度と品質管理が求められている。「施工屋泣かせというか...。配慮しなければならぬポイントがたくさんある現場ですが、その分やりがいもあるんです」と上方のイントネーションで楽しそうに話す。その背景にはデザインを体現するために繰り返された施工上の創意工夫と、この現場ならではのチームワークがある。

意匠優先の現場

最も留意したのは柱と床版の接合と仕上げだと戎野所長は語る。「通常ならば柱に床が噛んでいる。外見上、床があつてその上下に柱が立つ構造です。ところがここは『柱を一本で見せたい』建物なんです」。外観を囲む柱は縦方向に途切れること無く連続する。そのため床版と柱の接合部がキーポイントになる。「PC製作に先立ち、実験場で実物大による実験、解析を行い、水平方向の追従性能と接合部の強度を確認しました」。さらにPCの仕上げにもこだわった。「床版はコンクリートの打ち放しで、そのまま室内の天井部分になりますが、先端の形状が複雑なため、打設後のコンクリート表面にピンホールや縞模様が出てしまったんです」と戎野所長は明かす。

にないため、柱固定専用のサポートを使用し柱頂部はすでに架設された床版と柱部材の隙間にキャンバーを使用することで、調整・固定を行った。慎重に架設した後も測定を行い精度を確保した。

施工と品質の管理は当然のことだが、意匠性重視の現場には独特のプレッシャーが感じられた。「この図面で請けた以上は京都府、設計者の



上／室内の天井は照明器具のプレートが配置されるだけで、リブやコンクリートは内装として露出する。美しい仕上げに細心の注意を払った。(撮影：山田新治郎)



左／施工現場では中央部分のRCラーメン構造と、天井や外側を構成するPCaPCが一目で分かった。

意図、志に本気で応えないかんと思っています」。今後の工程でも創意工夫が求められるであろう現場で所長はそう自らを鼓舞している。

「無策な失敗」を繰り返すな

現場は五〇代、四〇代、二〇代のスタッフ七名で構成される。それぞれの世代で年齢の近い人員がそろった。所長は現場の雰囲気についてこう語る。「年齢的にもバランスがいい現場。みんな仲良くやっています。個々が抱える悩みや問題を早めに口に出せる風通しのいい現場でありたいと思っています」。状況が差し迫る前に「早めに言うとかよ」と声をかけ、工程に関する不安などを吸い上げるようにしている。それでもよく怒る、やかましい所長と「自」分析した。「一つ前の現場でよく怒った若手がいるのですが、彼が次の現場にも連れていってこれと自ら志願してここに着任しています。私は頭ごなしには怒りませんが、何も考えないで起こした失敗は許さない。経験、知識がないことは仕方ないが、無策であつてはダメだということを知ってほしい。彼にはそんな気持ちも伝わったのかも知れないですね」と目を細めた。

偶然その「若手」と言葉を交わす機会があつた。前の現場で大分怒られたんですか? 「はい!怒られました!でも愛情が伝わってくるんですよ。何かを教えてくださいるんだなって分かるんです」。相手を崩し、そう教えてくれた。



PCaPCには作り方が決まれば量産できるという利点があるが、ラインに乗せる前に部材の強度と精度を確認するため実物大試験を行った。

打設方法や手順、止め型枠を改めて検討、こでも何度も試験を行って克服した。「コンクリートの吹き出し速度を調整したり、バイブレーターを変えてみたり。PC製作業者と試行錯誤を繰り返して、ようやく納得できる美しいコンクリートの『肌』をつくることができました」。部材の保管にも気を配った。短期間のストックでも出荷前に汚れ防止の塗料を塗布、さらにブルーシートで覆った。「なんぼきれいな肌をつくっても野ざらしじゃ品質が落ちてしまうでしょう?」苦難の末生み出した部材はもはや貴重品扱いである。

PC部材が現場に搬入され建方が始まる。柱は断面が小さく、建方後も自立させることが難しい。位置を決めるための動かない躯体が近く



株式会社 松村組
教養教育共同化施設(仮称)
新築工事事務所 統括所長
戎野栄造
Eizo Ebisuno

てくれました。夏場のコンクリート打設は施工管理が難しい。想定外のことが起こると皆で話し合い、自発的に改善策を見いだします。いまや私が指示を出さなければ前に進まないという現場ではありません。若手社員も彼らなりの意志を持って頑張っています。「ええやんそれ!」という提案も次々と上げてきます。ここは、一体感に溢れた頼もしい現場になりました。

Q あなたがこの現場で発見したことは何ですか?

A 打ち放し化粧仕上げが多い独特のデザインを最大限に活かすには密なコンクリート打設が決め手になります。現場のスタッフには「いいコンクリートを打ちたい!」という気持ちだけを最初に伝えました。すると、全員が自覚を持って動き始めたんです。材料の検討だけは私が行いましたが、それ以降の綿密な打合せ、確認業務から施工まで各自が責任をもって行動し